

# 【別紙2】ソリューションの特長

従来

ソリューション利用後

## <児童・生徒>



- ・ 苦手なところが分からない、理解できていると思い込んでしまう
- ・ 先生に与えられた課題が自分の学力・進捗に合っていないため、学習意欲の低下につながる

## 自立学習

- ・ 理解が不足している項目を客観的・具体的に把握できる  
※1「つまずき診断システム」
- ・ 自分の学力・進捗に適した難易度の問題や出題量が提示されるため、効率的な学習の実施、学習意欲の向上につながる  
※2「出題難易度コントロールシステム」  
※3「定着度コントロール機能」

## <教員>



- ・ 手作業による分析では、児童・生徒の大まかな理解度しか把握できず、時間もかかってしまう
- ・ 授業内の限られた時間で児童・生徒の理解度を見極めなければならぬため、適切な指導が難しい

## 学習支援

- ・ 一人ひとりの「つまずきの原因」を手間なく詳細に把握できるため、弱点克服に向けた授業準備に多くの時間を割ける  
※1「つまずき診断システム」
- ・ 客観的な学習状況(学習時間・正答率)より、個々の学力に合わせた個別指導を行うことができる

## <学校・家庭>



- ・ 授業以外の学習状況を教員と児童・生徒間で共有できない

## 学習環境

- ・ 学校・家庭からいつでも学習に取り組み、学習時間や重点課題(宿題)の進捗状況を簡単に共有できる

※1「つまずき診断システム」(特許取得機能)：学習者が解けなかった問題について、過去に学んだどの要素を理解できていないかを自動的に探索し提示する機能

※2「出題難易度コントロールシステム」：受講者の学力に応じて、出題する問題の難易度を変化させる機能

※3「定着度コントロール機能」：学習者の理解度と定着度に応じて、出題する問題数を増減させる機能